

今日のトピック

2018年の豪州経済および豪ドルの見通し

資源セクター復調で成長率加速、豪ドルは堅調な展開へ

ポイント1

17年は2%台前半の成長

災害の影響を吸収して堅調に推移

- 2017年の豪州の実質GDP成長率は前年比2.2%程度と、前年の同2.6%から鈍化したと見られます。融資規制の強化やハリケーンの影響で、住宅投資が落ち込んだ等のためです。住宅を除く非資源セクターは概ね堅調に推移、資源セクターも資源価格の持ち直しを受け最悪期を脱しつつあります。豪州経済の実体は見掛けよりも良好と考えられます。

ポイント2

18年の成長率は加速しよう

緩やかな物価上昇、金利据え置きへ

- 雇用の増加や低金利効果等により、家計消費は18年、続く19年と緩やかに増加する見通しです。加えて、資源セクターの設備投資調整一巡、社会資本整備のための公共投資増が見込まれることから、景気の拡大ペースは加速すると考えられます。18年、19年の成長率はともに前年比2.9%程度と予想されます。
- 景気拡大の持続により、消費者物価の上昇率も緩やかに高まる見通しです。もっとも、豪州準備銀行(RBA)の目標レンジの下限である2%を超えてくるのは19年になると予想されます。RBAは、少なくとも18年いっぱい政策金利を現行の1.50%で据え置く可能性が高いと考えられます。

今後の展開

豪ドルは底堅い展開へ

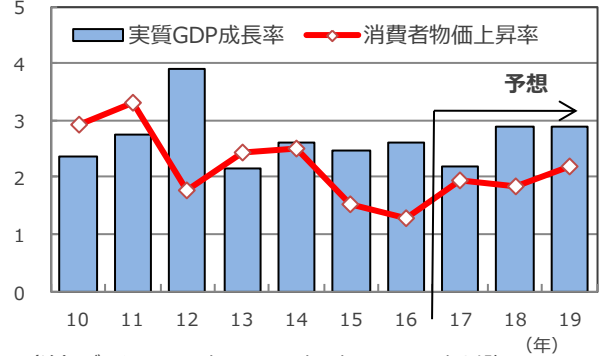
- 足元の豪ドルの対円相場は、やや軟調な動きとなっていますが、資源価格の持ち直し等により豪州経済の成長率加速や、貿易収支の黒字基調継続が見込まれること、豪州と日本の金融政策の方向性が異なること(日銀は緩和姿勢維持、RBAは据え置きの見通し)等から判断すると、今後豪ドルは対円で底堅く推移すると予想されます。

ここも チェック!

2017年12月 6日 豪州の金融政策は15会合連続の据え置き (2017年12月)
2017年11月27日 堅調に推移する豪州経済 (2017年11月)

【実質GDP成長率と物価上昇率の推移】

(前年比、%)



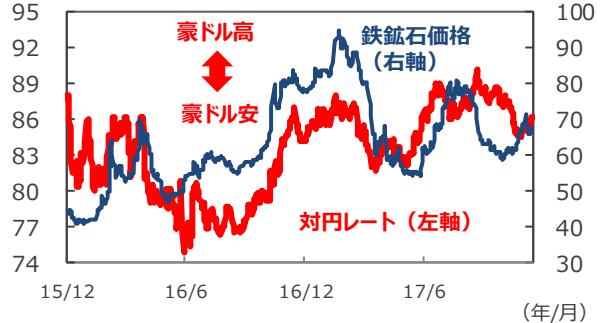
(注) データは2010年～2019年。但し、2017年以降は三井住友アセットマネジメントの予測値。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【鉄鉱石価格と豪ドルの対円相場】

(円/豪ドル)

(米ドル/トン)



(注) データは為替が2015年12月31日～2017年12月15日、鉄鉱石価格が2015年12月31日～2017年12月14日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成